

知的障がい教育における音楽科を指導する時のポイント

「音楽的な見方・考え方」とは？

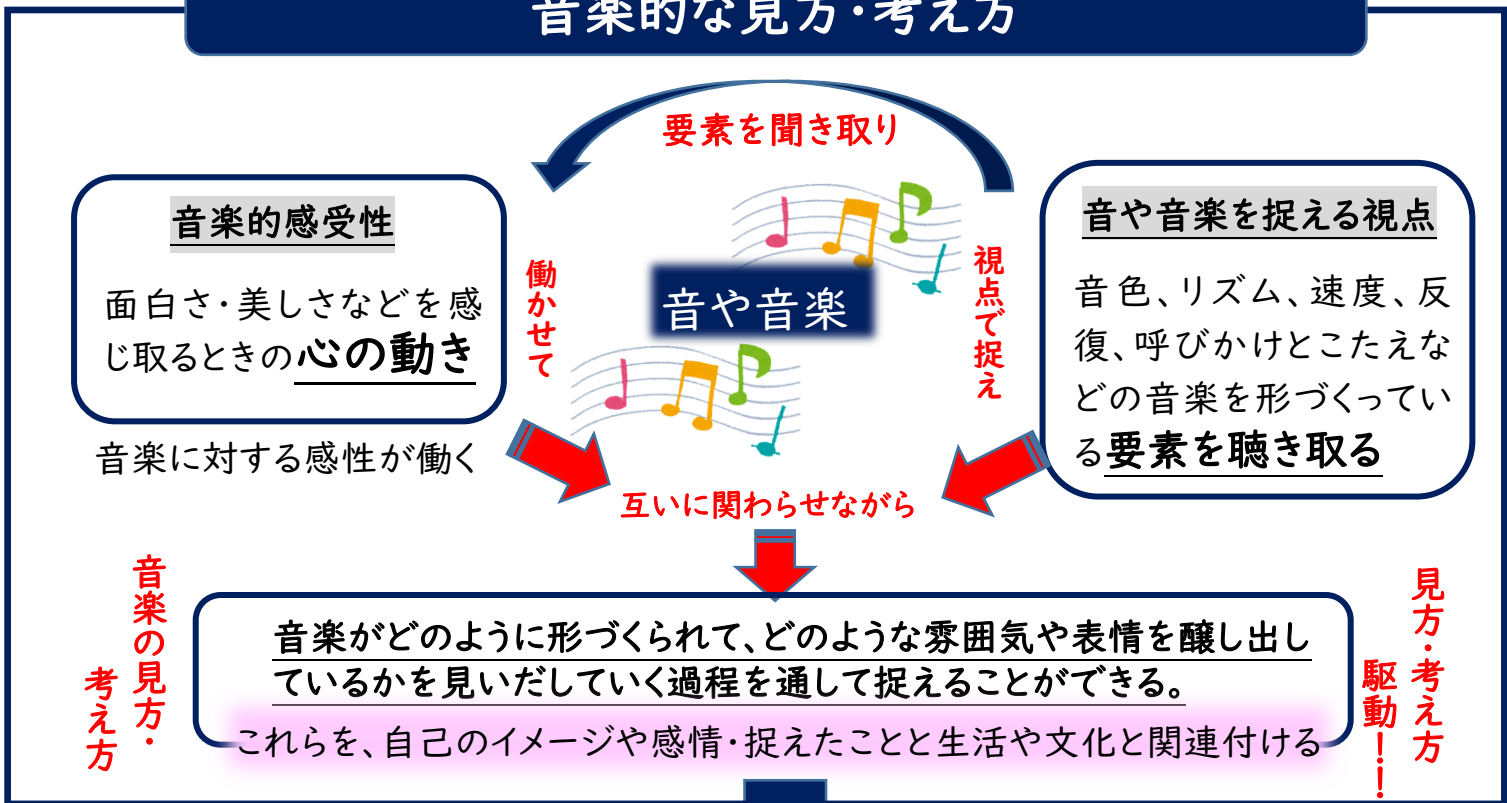
特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部)の音楽科において、下記のように示しています。

音楽的な見方・考え方とは、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること」であると考えられる。
(下線部は相馬支援学校による。)



さらに、学習指導要領解説で示している言葉の意味を読み取り、下図のようにまとめてみました。
今回は中学部の音楽科で考えてみましょう！

音楽的な見方・考え方



表現領域

自分なりの思いをもって歌ったり楽器を演奏したり音楽を作ったり身体表現したりする学習

学習の充実

鑑賞領域

楽しさを見だし、味わって聴く学習



授業者が、いかに見方・考え方を駆動できるようにするかが鍵

実践例の紹介 小学部 音楽科「がっきをならそう」

*指導内容:音楽科小学部3段階「音楽づくり」



【学習の充実へ】子どもたちの様子から

表現領域

自分なりの思いをもって楽器を演奏したり音楽を作ったりする学習の充実へ

「りんりん」は鈴の音に似ているから、鈴を鳴らして表現しよう



友達がスズムシの音を表現する場面でギロを選ぶと、「違う!りんりんはこれだよ!」と、自分の考えを伝える場面が見られました。



学習が充実し、子どもたちが考え気づいたり、新しい学びに出会ったりする姿を見ると、私たちも嬉しいですね。だからこそ、どう意図的に単元構想するかが大事になってきますね。

